

## あけましておめでとうございます

本年より渭南病院の広報紙を発行いたします。第一号となる今回は院長および各部長より創刊と新年のご挨拶をお届けします。これから季節ごとに院内の様子をお伝えする予定です。2017年も渭南病院をよろしくお願いいたします。

〒787-0331 高知県土佐清水市越前町6番1号 TEL 0880-82-1151 発行者 溝渕 敏水 事務局 上岡 太郎

## 院長より 『病院機関誌発行にあたり』

医療法人聖真会始まって以来、機関誌発行を試みるにあたり、何をお伝えしようかと考えました。

ついでに、本市における医療がどのように守られてきたかという「歴史」を改めて思い返し、今後の本市の地域医療に生かしていくべきことを伝えられたらと思います。

渭南病院は大正12年、本市に開設されました。当時はまだ市ではありませんでしたが、人口は今の倍以上あり、医療体制は脆弱な状況でした。そうした中で、開設者の「地域の医療を何とかしたい」という「思い」から病院開設に至りました。その後医療保険などの医療体制が確立されましたが、本市の医療資源不足は長く変わらない状況が続きました。当時のことを考えると現在の何倍も大変な状況であったと推測されます。それでも、開設者を含め本市の医療に

携わった先人の方々に、医療者としての「責任」と「思い」があったからこそ続けてこられたのだと思います。

現在の社会情勢を考えたとき、様々な要因により「責任」や「思い」だけでは医療を提供できなくなっているのも事実です。だからこそ、社会情勢の変化に対応し、形を変えてでも当地域の医療を守ることが、自分たちや先人の方々の「責任」や「思い」を伝え・繋ぐことになっていくものと考えています。

「機関誌発行」。皆さんには、一つでも、そこに「思い」や「責任」が繋がっているということを理解して頂き、これからの医療に繋げていって貰いたいと切に願っております。



院長 溝渕 敏水

## 診療部長より 『謹んで新年のお喜びを申し上げます』

この一年が皆様にとって幸多き年となりますようお祈り申し上げます。

今年で渭南病院に着任して11年目を迎えます。ここまでがんばってこられたのは、院長先生、副院長先生、診療部の先生方をはじめ、多くの職員の皆様を支えていただいたおかげと大変感謝しております。

当院の役割は一般診療・救急医療から在宅医療まで幅広く、我々診療部は患者様が当市で標準的な医療が受けられることを第一に考えております。しかし、現実には医師不足が慢性化しており、患者様や職場の皆様に対して至らない点が多々あることは承知しております。至らない点を振り返り、改善できることは速やかに改善し、皆様から信頼され、愛される渭南病院を目指して、診療部長としてできることを着実にやって参りたいと考えております。

とはいうものの今年で50歳を迎え、体力的に年々厳しいものを感じるようになり、多忙が続くと時として心が折れそうになる時もあります。そんな時には所持している手帳に書いてある文を読み、初心に返って心を引き締めるよう

にしています。

「医師は自ら天職を良く承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい。」

これは九州のある先生が若い先生を指導するときに言われた言葉ですが、自分自身も大変感銘を受けました。この言葉は決して医師のみに当てはまることではなく、医療関係で働く全医療者に向けてのメッセージととらえてよいのではないかと思います。仕事をしていく上で、しんどいこと、つらいことが多々あり、うまくいかないこともあるかと思いますが、そんな時こそ自分自身に元気や勇気を与えてくれる一言、それがあればどんなことも乗り越えられると思います。

「天職」良い響きだと思いませんか？  
今年も何卒よろしく願い申し上げます。



診療部長 梶田 健

## 事務長より 『年頭所感、未来に勝ち残ろう！』

新年あけましておめでとうございます。皆様にとり、明るく健康な一年になりますようお祈り申し上げます。

今年は酉年、鳥は恐竜から進化したそうです。恐竜の一種であった鳥の祖先は、大型肉食恐竜がこの世の春を謳歌していた中、小型軽量化によって、高速で空を飛ぶ能力を身につけ、その後起きた隕石の落下によって全ての恐竜が絶滅した後も生き延びました。

平成30年4月の医療介護同時改定は、病院や介護事業所にとって大きな変革を迫られる内容となることがわかっています。人口減少による医療介護専門職の不足、急激な高齢化による医療介護給付費の大幅増加に対し、より効率的な医療提供体制を図るとする国の施策は非常に下

ラスティックなものです。また、今後予想される南海地震にも、全員で備え立ち向かって行かねばなりません。

地域の存続にとって「命を守る」病院は、なくてはならない存在です。力不足ではありますが、本年も環境変化の情報いち早く捉え、病院が健全に勝ち残る経営判断のための一助になりたいと思いません。当院が元気であることは、地域活性化にもつながるのだと信じ、取り組むたいと存じます。本年も何卒よろしく願い申し上げます。



事務長 上岡 太郎

## 看護部長より 『恭賀新年』

新しい年が、皆様一層お幸せであります様、お祈り申し上げます。

さて、今年で渭南病院へ着任して三年目になります。一年目はここ土佐清水市の環境に慣れることで精一杯の年でした。二年目は在宅介護医療連携事業に携わる機会を得て、地域の皆様とようやく顔見知りになった年であり、土佐清水市で唯一の訪問看護ステーションを立上げ、地域医療の充実に一歩前進することができました。そして三年目、一つの覚悟が決まりつつあります。少子高齢化の最前線に行く本市に必要なのは、もは

や高齢者介護のみならず、全てのライフステージに寄り添うケアシステムを構築することだと、強く感じております。母子・小児・障害・難病・癌・精神保健・福祉・介護・認知症・生活習慣病などを団子と表現するならば、その一本の串は「医療」です。一生に一度しかない人生。医療格差を縮め、地域の皆様が、この土佐清水に生まれ、ここで全うできて良かったと感じられる、幸せなひと時を分かち合える、そんな街づくりに参画できるシステム作りが、私の今年の覚悟です。

有言実行！一生懸命頑張りますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

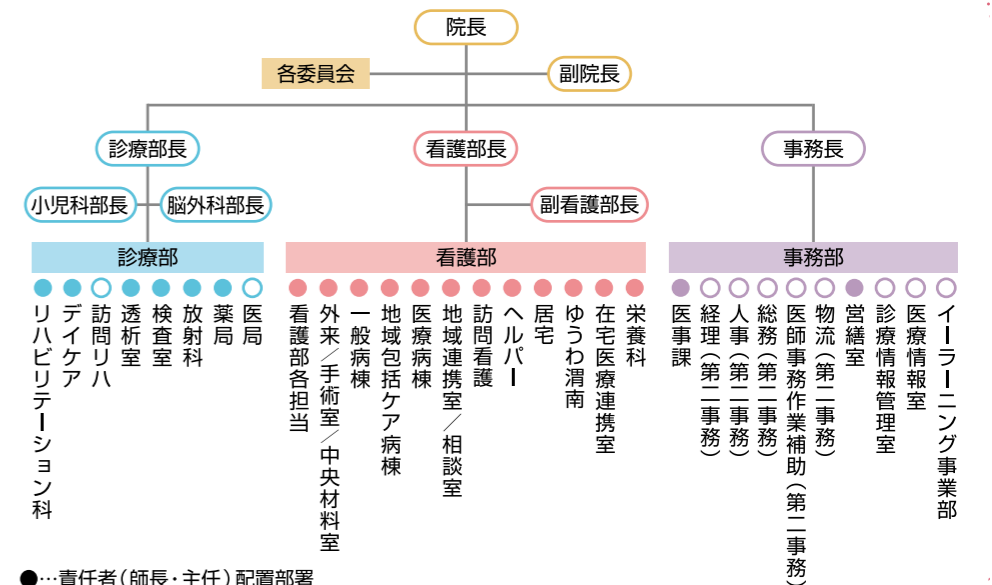


看護部長 竹林 高子

### 病院紹介①

#### ～組織図編～

当紙では毎号各部署やスタッフの紹介を行っていく予定です。第一弾の今回は渭南病院の組織図をご紹介します。このような組織系統のもと、各部署が日々業務に励み、連携することで病院全体が滞りなく機能しています。今年もそれぞれの持ち場でがんばっていきましょう！



●…責任者(師長・主任) 配置部署